SDGs 実践報告

指導教官：中　善則
授業者：花園大学文学部日本文学科日本文学コース
４回生　　村瀬　優希

1、日時

2021 年 1 月 28 日木曜日　13 時～14 時 30 分

2、対象

中学 3 年生(受講生は社会科公民科教育法履修者の大学 2 年生～大学 4 年生の 13 名)

3、授業の目的

この社会科公民科教育法の履修者は、中学社会、高校地歴・公民の教員免許の取得を目指している学生である。NIE の実践として、新聞一日分を活用した授業の一例を紹介する。今回は、「先生のための SDGs 勉強会」で学んだことを踏まえた授業を行い、NIE の実践例の紹介を行う。

本単元は、中学３年の社会科公民的分野の終章「私たちにできること」に位置付けられており、以下の教材観を踏まえた 7 時間構成の授業の指導案を作成した。

教材観：「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向けて、今までに習ってきた、歴史や地理、公民での学習を通して身に付けた様々な見方や考え方を活かして、より良い社会にするための課題と解決策を考えさせる。そのために、SDGs の 17 個の目標の観点が、自分たちとどのように関わっているのかを知り、現代社会で起きていることから問題点や課題を見つけ、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて、自分たち（一人一人）ができる解決策を考えさせる。その中でも、SDGs は国際社会共通の目標であることから、自分や日本国内のことだけを問題視するのではなく、海外の出来事や、世界情勢などの視点も必要であることを理解させる。SDGs や「持続可能な社会」についての基礎知識（国連の取り組みや社会の動向など）を身に付けたうえで、現代社会の様子を把握するために、新聞を活用して適切に情報を読み取るとともに、課題を見つけ、自分たちでできる解決策を探していく。その後も新聞を活用して、グループワークやまわしよみ新聞の作成、発表を行い、他者の意見を聞くことで、新たな視点で社会（世界）の様子を見ることのできる力を養っていく。そして、新聞から読み取ったり、他者の意見を聞いたりしたうえで、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて、一人ひとりが問題意識を持つとともに、その問題を解決するために自分たちができること考えさせる。

この教材観を踏まえて、本授業は７時間構成のうちの、３時間目と４時間目の授業を行った。その日の新聞記事と SDGs の 17 個の目標を関連させ、今日の社会で起きていることに目を向けさせる。さらに、SDGs が自分たちの生活との関りについて考えるとともに、新聞記事から課題を探し、私たちができること(解決策)を考えさせる。

4、授業の様子

【3 時間目：「誰一人取り残さない社会」にするために私たちにできることを考えよう。】

SDGs の 17 個の目標を確認してもらうために、YouTube を活用して、17 個の目標の内容を思い出させる。その後、新聞記事と「ペタッと SDGs 新聞学習ふせん」を配布し、活動内容や使い方を説明する。まずは、新聞記事から SDGs の目標に関連する記事を探し、付箋につぶやきを書いて見出しの横に貼る。(SDGs の目標達成に向けた取り組みの場合には赤字で、課題や問題の場合には青字でつぶやきを書く。)





新聞を普段読まない学生にとって、新聞一日分を読むには、時間を十分、確保することが必要である。しかし、見出しやラテ欄、広告等を活用することで、新聞記事の内容を丁寧に読み込まなくても、SDGs の目標に関連する記事が探しやすくなっていた。見出しから SDGs の目標に関連する記事を見つけたり、記事の内容にも SDGs の目標が隠されていないかを探したり、ラテ欄や広告にも目を向けてりする学生も見られた。





その後、班のメンバーのつぶやきを、同じ目標の付箋に黒字で書き、自分の新聞の見出しの横に貼りながら、意見を共有する。（今回の模擬授業では、時間の関係で、つぶやきを共有し、同じ番号の付箋を見出しの横に貼り、意見共有とした。）









班共有の後、壁に貼られた新聞を使って、全体共有を行う。ここでは、自分が書いた赤字と青字の付箋のみを貼り、他の班の人がどのようなつぶやきを書いたのか、どの記事から SDGs を見つけたのかを見る時間を取った。（本来の授業であれば、班で分担し、他の班の人のつぶやきをワークシートに書かせて、全体共有とする。）









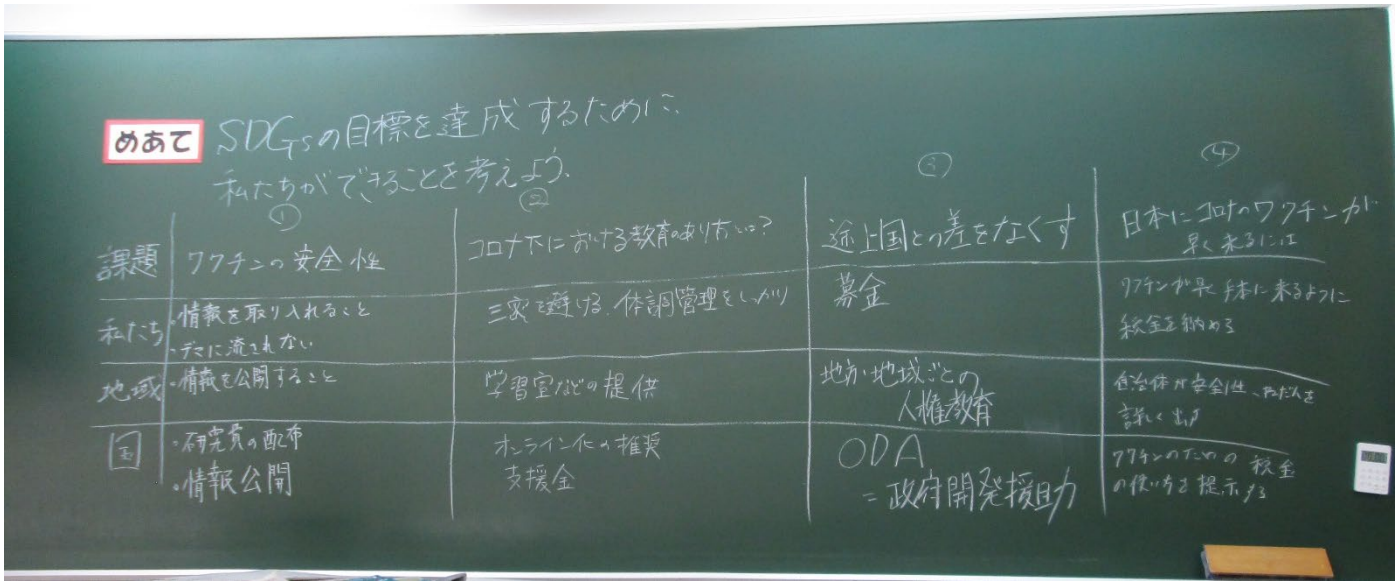
【4時間目：課題を解決するための方法を、３つの視点で考えよう。】

全体で意見共有した後、自分で書いた青字の付箋のみを取り、班に持ち帰る。そして、班で青字の付箋（SDGs の課題や問題）について、解決すべき優先順位を班で話し合い、解決すべき順に並べる。解決すべき優先順位が高いものから、「私たち」、「地域」、「国」の３つの視点で、解決策を考えさせる。この他にも、「企業」や「世界」でできることもあるが、生徒（学生）がこの SDGs を自分事として捉え、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて、一人ひとりが問題意識を持つとともに、その問題を解決するために自分たちができること考えさせるために、３つの視点に絞り、解決策を考えさせた。私たちにできることを考えさせることで、SDGs を身近に感じさせるとともに、自分たちでも目標達成に向けた取り組みができることを実感させる。そのうえで、自分たちだけでは解決できないことを地域単位で解決していく。そして、地域の一員として、地域の方々とともに、課題を解決していく。ただ、授業内で考えるだけでは、地域での解決策にはならないため、5 時間目と 6 時間目で作成・発表を行うまわしよみ新聞を地域の方々にも配布し、地域の方々とともに、解決に向けた取り組みを行っていく。また、「地域」と「国」の解決策を考えさせた目的は、一人の市民として、一人の国民として、今後の動向にも注目していかなければならないからである。この授業を通して考えた、地域や国の課題を解決するための動きがなされているか、早く解決すべき問題がさらなる課題につながってしまう取り組みや政策が行われていないかなど、地域や都道府県、国の動向に注目させるための一つの手立てとして役立てるために、「私たち」、「地域」、「国」の３つの視点で考えさせる。





班で解決策を考えたうえで、全体共有を行う。今回の模擬授業では、時間の関係で解決すべき優先順位が一番高い課題のみ、解決策を共有させた。ここでは、同じ新聞記事でも、視点（課題）が違えば、解決策もたくさんあり、SDGs の目標達成に向けて、私たちができることも、たくさんあることを理解させる。そのうえで、自分たちの話し合いでは出なかった、別の視点でも記事の内容を捉えられるように、意見を共有させた。



5、授業の改善点

この模擬授業では、２時間分の授業を行った。時間の関係で、意見共有の時間を短縮したが、新聞を自由に読む時間を確保したり、意見共有したりする時間をもっと確保する必要性があった。受講生の多くが、普段から新聞を読んでおらず、SDGs についての知識もほとんどなかったため、SDGs の目標達成に向けた取り組み事例や、目標達成に向けての課題や問題を見つける時間がさらに必要であった。さらに、つぶやきの共有についても、他の班の人のつぶやきも書く時間があれば、優先順位の決定や、解決策についても多くの意見が出せるようになり、さらに深い学びへとつながると考えられる。そのため、課題や問題については全体共有を行い、各班でそれぞれの解決策を考えることで、「私たち」、「地域」、「国」の解決策にも違いが生まれ、SDGs の目標を達成するための方法が 1 つではないことに気づくことができるため、意見共有を丁寧に行うことも必要である。

また、本単元の最後に「私たちの SDGs」として、「私たちにできること」と、「地域でできること」を考えさせ、提案書を作成し、地域の方々に配布する。その提案書については、地域の方々から、意見や感想ももらい、ともに考えを深めることのできる授業になるような取り組みにする。

本単元は、終章ということで、十分な時間確保の余裕がない場合があるので、総合的な学習の時間や、新聞作成については国語科の授業も使いながら、教科横断的な学習として進めていくことも視野に入れながら、全 9 時間構成で行っていくほうが良いと考える。